

まるっと協議体 全体会

本日の次第

- 1, まるっと協議体についての説明(振り返り)
- 2, 委員紹介(自己紹介)
- 3, これまでの振り返り
(コーディネーターからの取り組み報告)
- 4, 各PJ(生活支援、移動)の進捗状況報告
- 5, 協議
- 6, その他

1, まるっと協議体についての説明(振り返り)

生活支援体制整備事業の登っている山(目的)は…

「支援や介護が必要な状態になっても住み慣れた地域で暮らす」

だから

「地域の支え合いの体制づくり」をする

そのために



一丁目一番地は
「地域の実情を把握」

地域の実情に応じて 住民等の多様な主体が参画 多様なサービスを充実

①



・地域ニーズカルテ
・地域資源
・企業カルテ
・ウインケア
で集約
・地域活動の訪問で把握 など

②

(応じられるよう)
会議体を整理

③

まると協議体を
開催・活性化



④

住民主体による訪問型サービスの見直し



政策や他の協議会への
提案・提言

民間企業や各種団体等の連携により
課題解決につながる取り組み

メンバー

NPO法人、民生委員、地
域包括支援センター、
社会福祉法人、民間企
業、シルバー人材セン
ター、老人クラブ連合
会、介護予防・フレイ
ル予防推進員など



協議・伴走など
プロジェクトチーム

まるっと協議体 地域の課題を協議する

分析・見える化したものを多様な方々と共有し検討

様々な会議体で行政や専門職が分析・見える化

地域のニーズや生活課題が生活支援コーディネーターに集約

2, 委員紹介(自己紹介)

～お名前・所属組織・普段の仕事～

3, これまでの振り返り

～コーディネーターの取り組み報告～

docs.google.com/spreadsheets/d/17xrsMqtNekFqo3-DaOsIvaRZIAGtBU9AZFY2Ya_6K94/edit?gid=401214912#gid=401214912

ログイン - Google アカ... 看護roo! Microsoft Office ホーム ゆるかわいい無料イラ... 可愛い絵文字アイコン... かわいい女の子のイラ... 輪になる仲間のイラスト... 管理画面ログイン | Li... 給与・打刻 Cisco Webex 》 すべてのブックマーク

100% ¥ % 0.00 123 デフォ... 19 + B I 田 123 4 5 6 7 8 9 10 11 12

	A	B	C	D
1	団体名			
2	記入日			
3	記入者			
4	団体の聞き取り			
5	現状課題だと感じている事や困っている事			
6	将来的にどのようななればよいと感じているか			
7	現状および将来にほしい支援やアイデア			
8	聞き取った専門職の考察			
9	強み:			
10	弱み:			
11	課題:			
12	課題の根拠:			

会 和田公園自治会 京王一ノ宮団地 和田第1自治会 並木 2024年6月20日 木曜日



介護事業所・生活関連情報検索

介護サービス情報公表システム

文字サイズの変更 中 大 最大

[全国版トップ](#) > 東京都

▶ [公表情報の読み解き方](#)

▶ [介護保険について](#)

▶ [このホームページの使い方](#)

▶ [アンケート](#)

▶ [地域包括支援センター事業所一覧](#)

▶ [全国トップへ戻る](#)



介護事業所を検索する



地域包括支援センター
を検索する



住まい（サービス付き
高齢者向け住宅）
を検索する



生活支援等サービス



有料老人ホーム

204
木



企業等への訪問・説明



住民団体等への訪問・説明



この他の活動写真は
当日資料にのみ掲載



4, 各PJ(生活支援、移動)の進捗状況報告

1)生活支援プロジェクト

第1回（7/23）生活支援分科会の振り返りと今後についての検討

第2回（9/24）生活支援に関して、分析の途中報告と意見交換

（第2部で生活支援サポーター育成に関する共有と検討）



【第1回協議内容】

	【感じている生活課題】 主観的評価	【数字としてあらわされている生活課題】 客観的評価
生活支援 分科会	○サポーターが使われない ○サポーター不足、養成戦略不足 ○上記に伴って課題が把握できていない ○サポーターの内容 弾力化 ○高層階のゴミ出し問題	△みなしヘルパーや訪問Bプランでも、有償ボラ使っている件数ってどのくらい?? △どんなことだと有償ボラ?? △書類の手間ってどのくらい? △生活支援のニーズは? 実態調査から
	【どうなるとよい?】 今自費でないといけないような事を、 訪問Bでもできるようにしてほしい 書類がもっと楽になってほしい	第1層SCでニーズ調査からの分析 ➡9月末にまとめて共有・協議 ➡10月まるっと全体会へ?
訪問Bをより使いやすく発展することを目的に 根拠づくりをするプロジェクトへ 期間:2025年3月末		

【今後のPJスケジュール】

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
根拠 整理			包括・有償ボラで件数把握						集計	
			NPO・シルバー・社協などで件数把握							

包括 訪B・みなしでプランを組んでいる(件数)けれど、有償ボラや民間を使っている(件数・内容)

NPO・シルバー・社協・民間 有償ボラでどんなことを対応しているか(内容と件数)

【今後のニーズ整理 スケジュール】

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
地域 ニーズ			一層で分析							
			経過 報告 (9・24)	経過 報告 (10・25)	分科会開催 方向性を 決める					

一層 実態調査・ニーズ調査から地域ニーズ洗い出し

【第2回 共有内容】

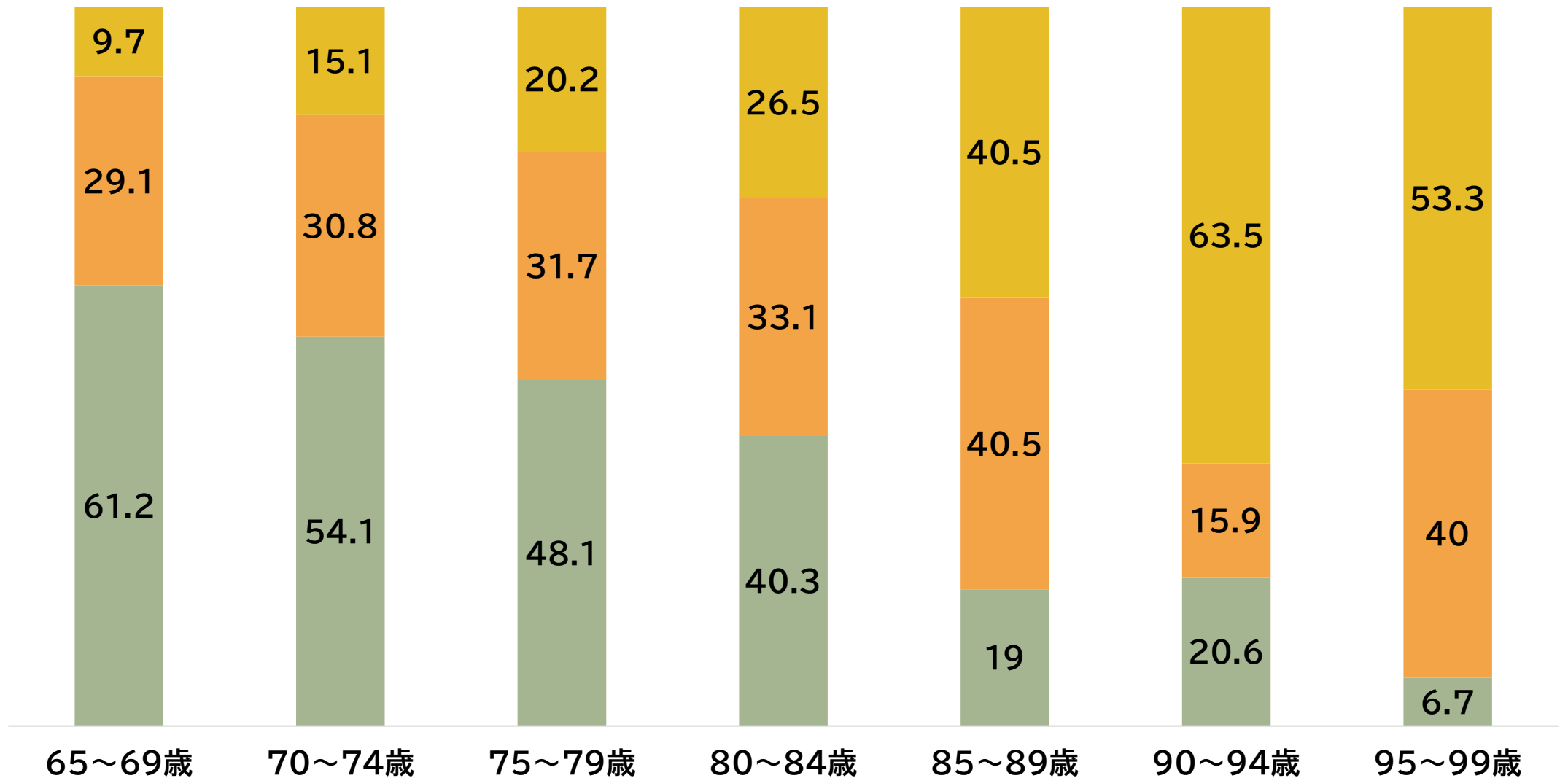
行政が高齢者保健福祉計画の見直しなどに
活用するために3年に1度行う実態調査

高齢者ニーズ調査

対象：調査時点で要介護等認定を受けていない65歳以上の市内在住者

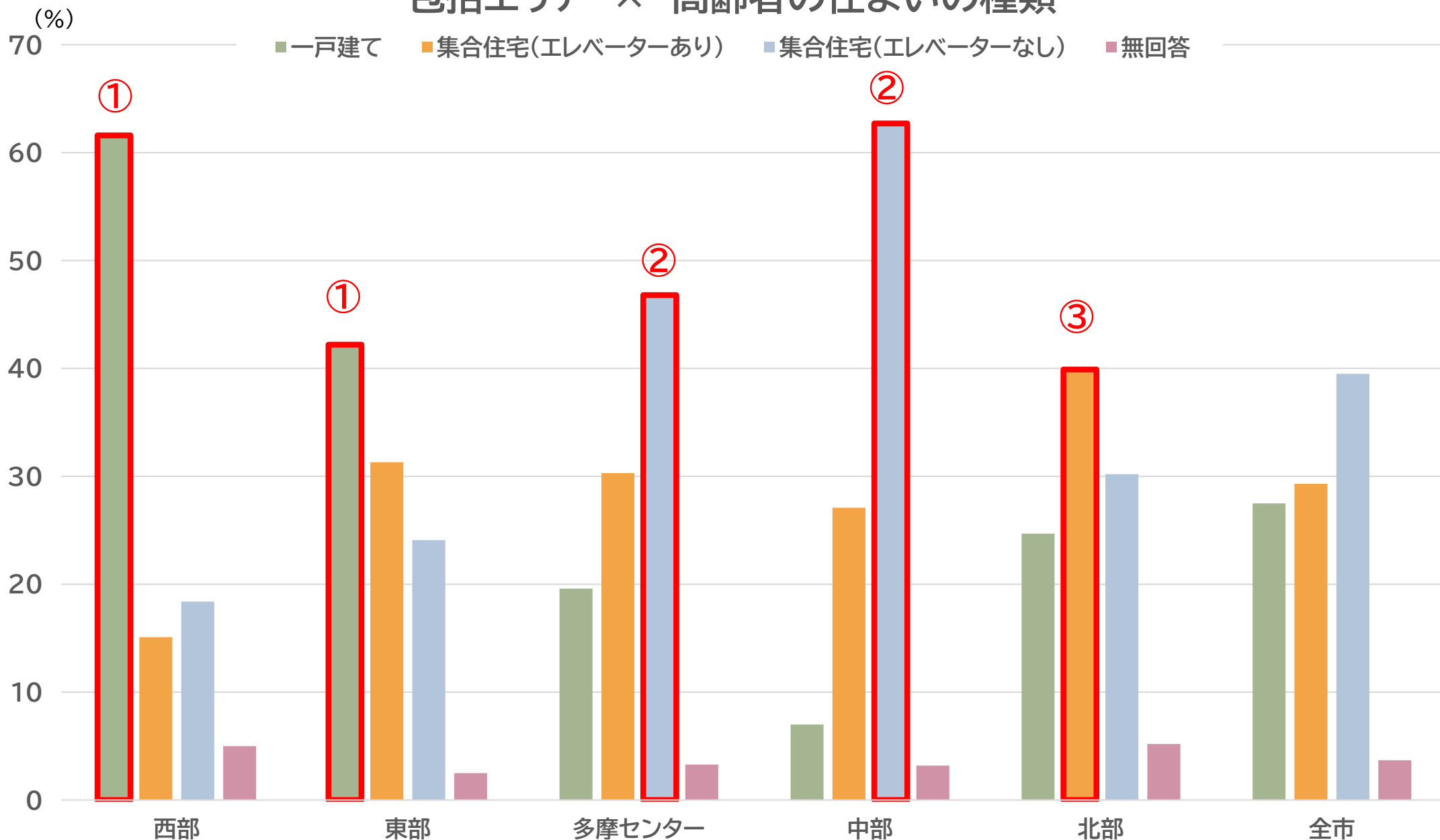
フレイル度 × 年齢

■フレイルなし(0-3) ■プレフレイル(4-7) ■フレイル(8以上)



年齢によりフレイル・プレフレイルは増加していく
前期高齢者も、4割以上がフレイル・プレフレイル

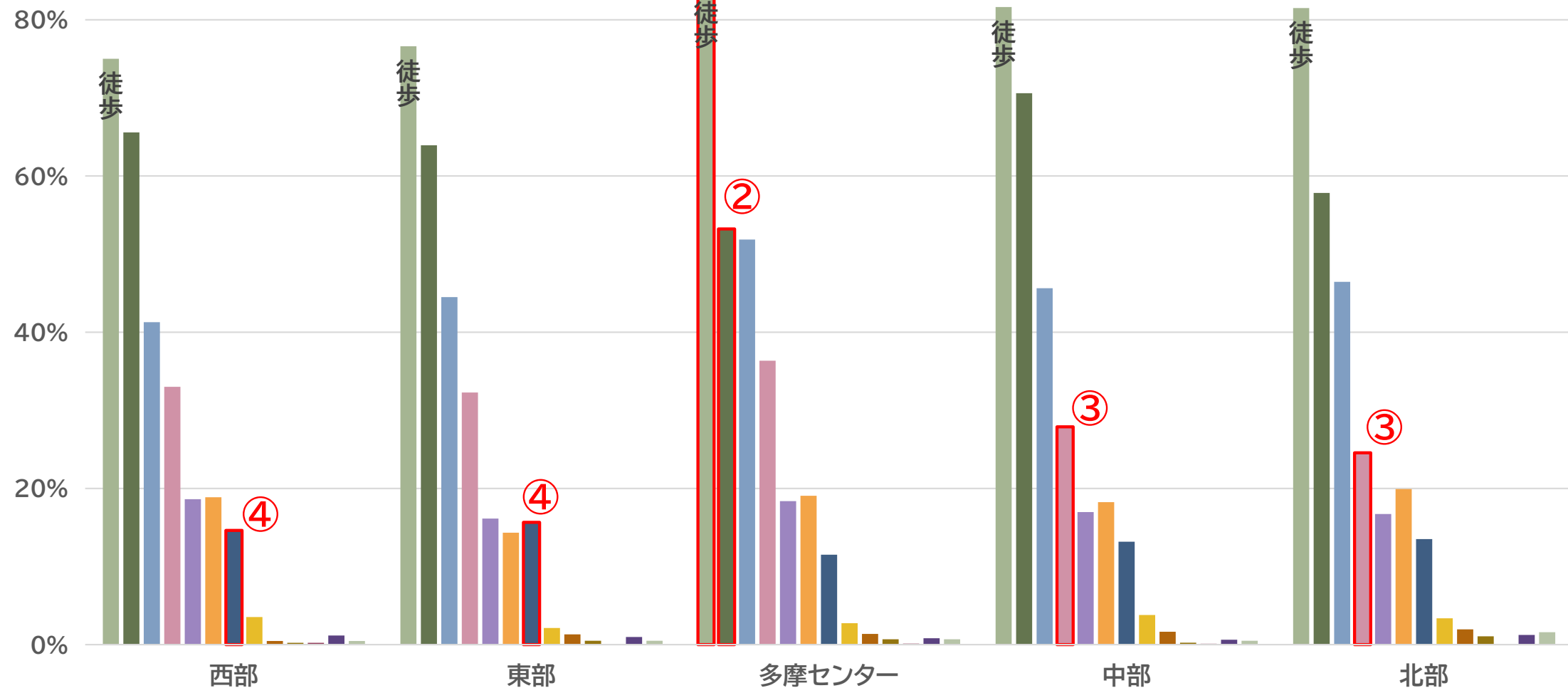
包括エリア × 高齢者の住まいの種類



- ①西部・東部は戸建てが多い ②中部と多摩センターはエレベーターなし集合住宅が多い
③北部はエレベーターがある集合住宅が多い

包括エリア × 外出する際の手段(複数選択可)

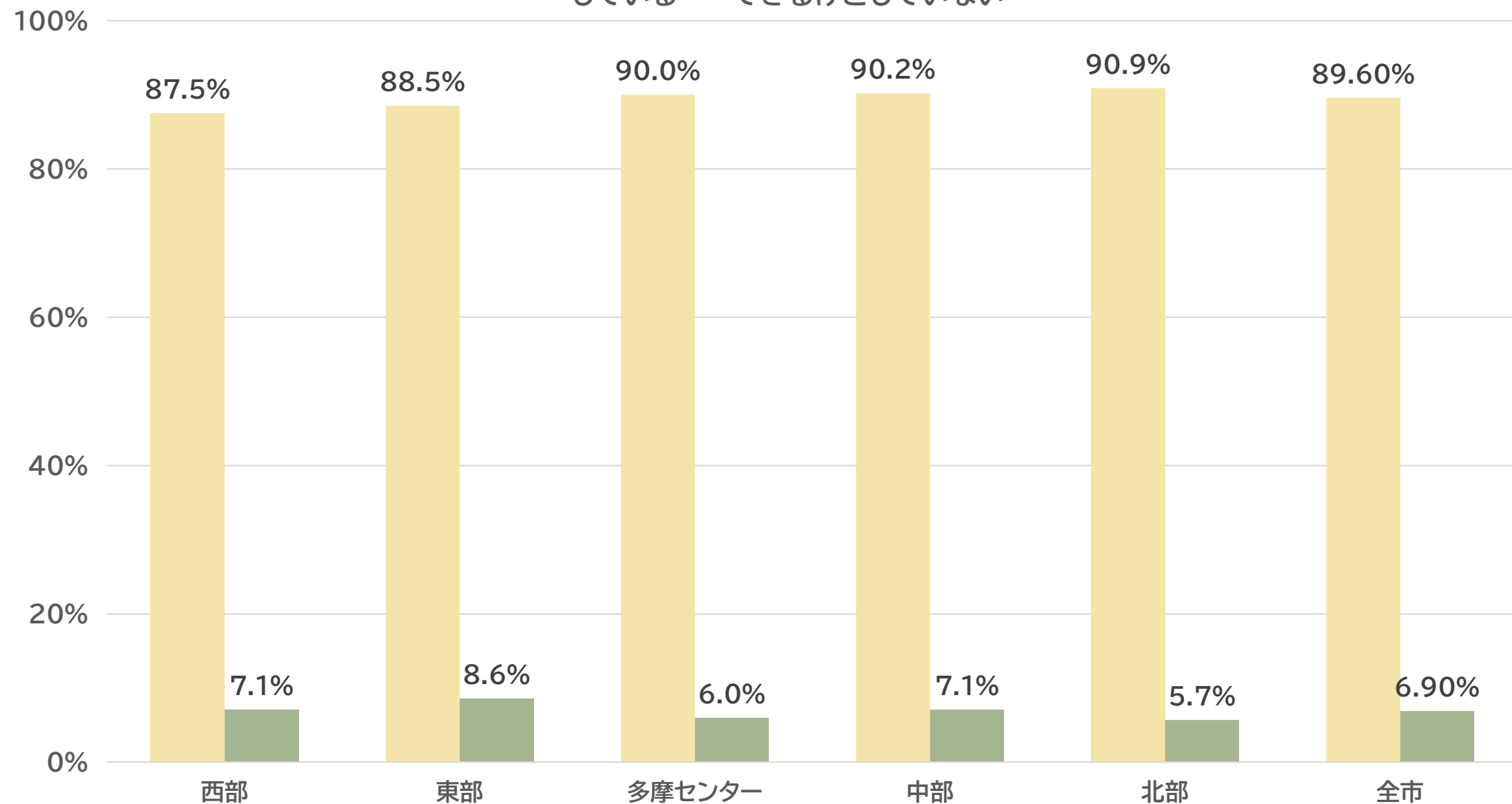
- 徒歩
- 自動車(自分で運転)
- タクシー
- 車いす
- その他
- 路線バス
- 自動車(人に乗せてもらう)
- バイク
- 電動車いす(カート)
- 電車
- 自転車
- 病院や施設のバス
- 歩行器・シルバーカー



- ①徒歩 バス 電車 自分で運転する という順番
 ②多摩センターエリアは、他に比べ路線バスは少なく徒歩が多い
 ③中部と北部は自分で運転する方がやや少ない ④東部や西部はタクシー移動がやや多い

包括エリア × 自分で食品・日用品の買い出しを行っているか

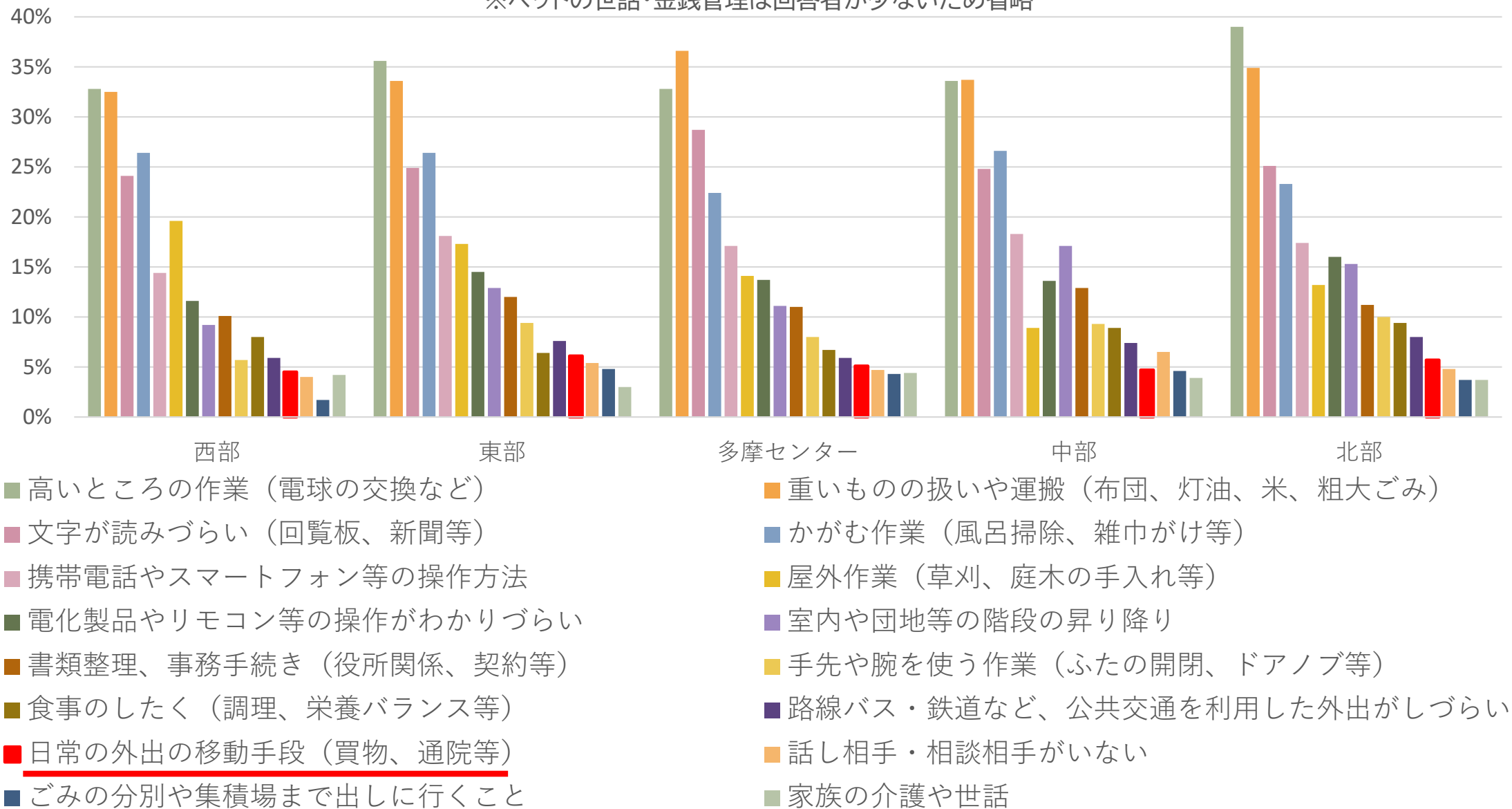
■ している ■ できるけどしていない



- ①西部エリアはほかに比べると「している方」がやや少ない
②多摩センターと北部エリアは「できるけどしていない方」はやや少ない

包括エリア × 日常生活の中で困っていること(複数選択可)

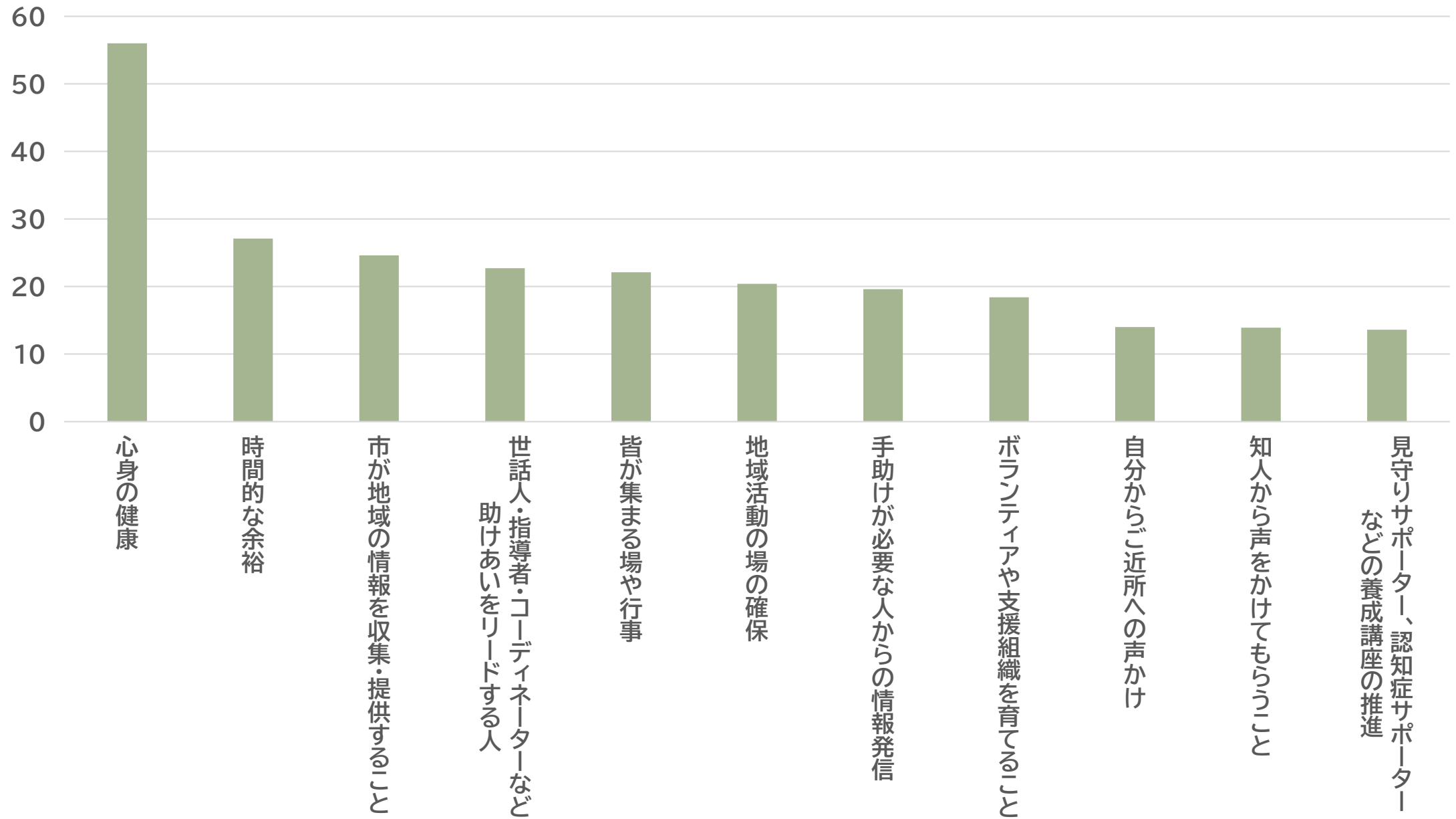
※ペットの世話・金銭管理は回答者が少ないため省略



- ①高いところの作業 重いものの扱いに関することが上位で、続いて読みづらさやかがむ動作
- ②団地が多いのか戸建てが多いのかによって、屋外作業や階段昇降の割合が変わる
- ③「日常の外出手段」に関してはおおむね5%で低い

ゆるやかな見守りや助け合い活動促進に必要な事

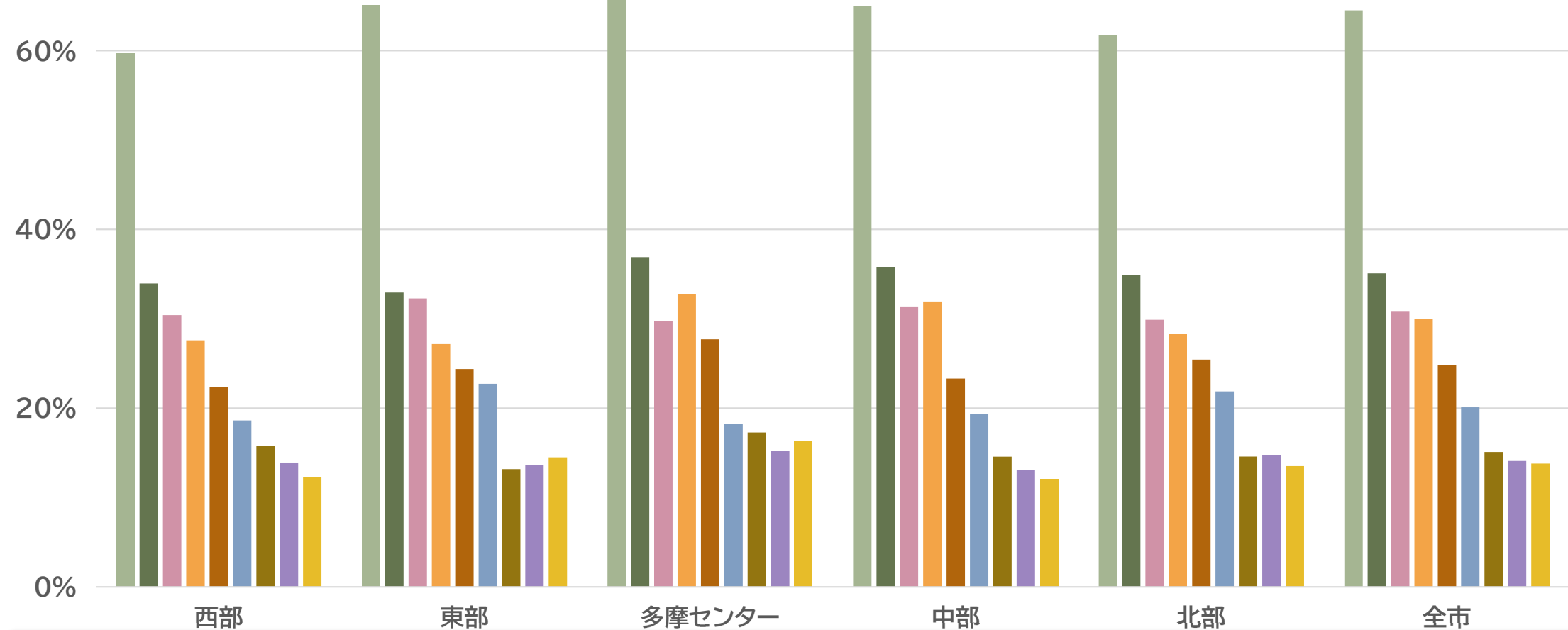
(%)



心身の健康が半数以上 全体的に前回実施した令和2年度と同様

包括エリア × 見守りや助け合いを促進するための 場や行事であるといいもの

- いつでも行きたいときに気軽に行ける場
- 認知症になっても温かく受け入れてもらえる場
- 講座など学習する場
- 幅広い年代が参加できるお祭りや餅つきなどの行事
- 近所の人や住民ボランティアが運営している場
- 体操など身体を動かせる場
- 医療や福祉の専門職が支援に来てくれる場
- 歌、手芸、囲碁などの趣味活動ができる場
- 食事が食べられる場



- ① 気軽に行ける場がどのエリアも5割を超える
- ② 続いて体操・認知症になっても温かく受け入れてもらえる場・専門職が支援に来てくれる場となっている

行政が介護保険事業計画の見直しなどに
活用するために3年に1度行う実態調査

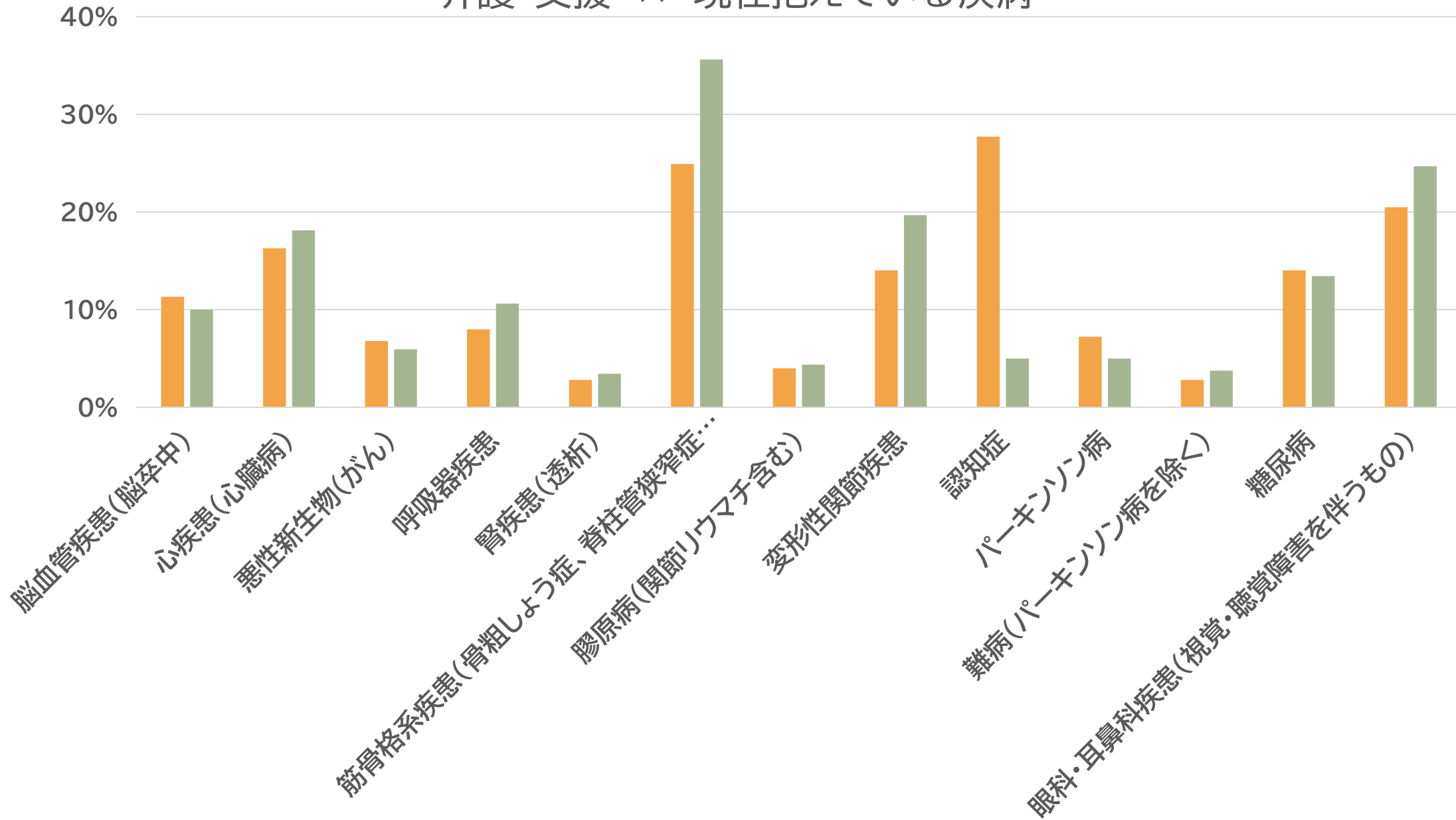
在宅介護実態調査

調査時点で要支援・要介護認定をうけており
更新・区分変更による認定調査を受けた方

要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3-5
165人	155人	164人	183人	239人

介護・支援 × 現在抱えている疾病

全体 要支援1・2



要介護・要支援全体でみると認知症が多いが 要支援1・2では認知症は少なく筋骨格系が多い

介護・支援 × 利用している介護保険外サービス(複数回答可)

10%

■ 全体 ■ 要支援1・2

0%

配食

調理

掃除・洗濯

買い物(宅配は含まない)

ゴミ出し

外出同行(通院、買い物など)

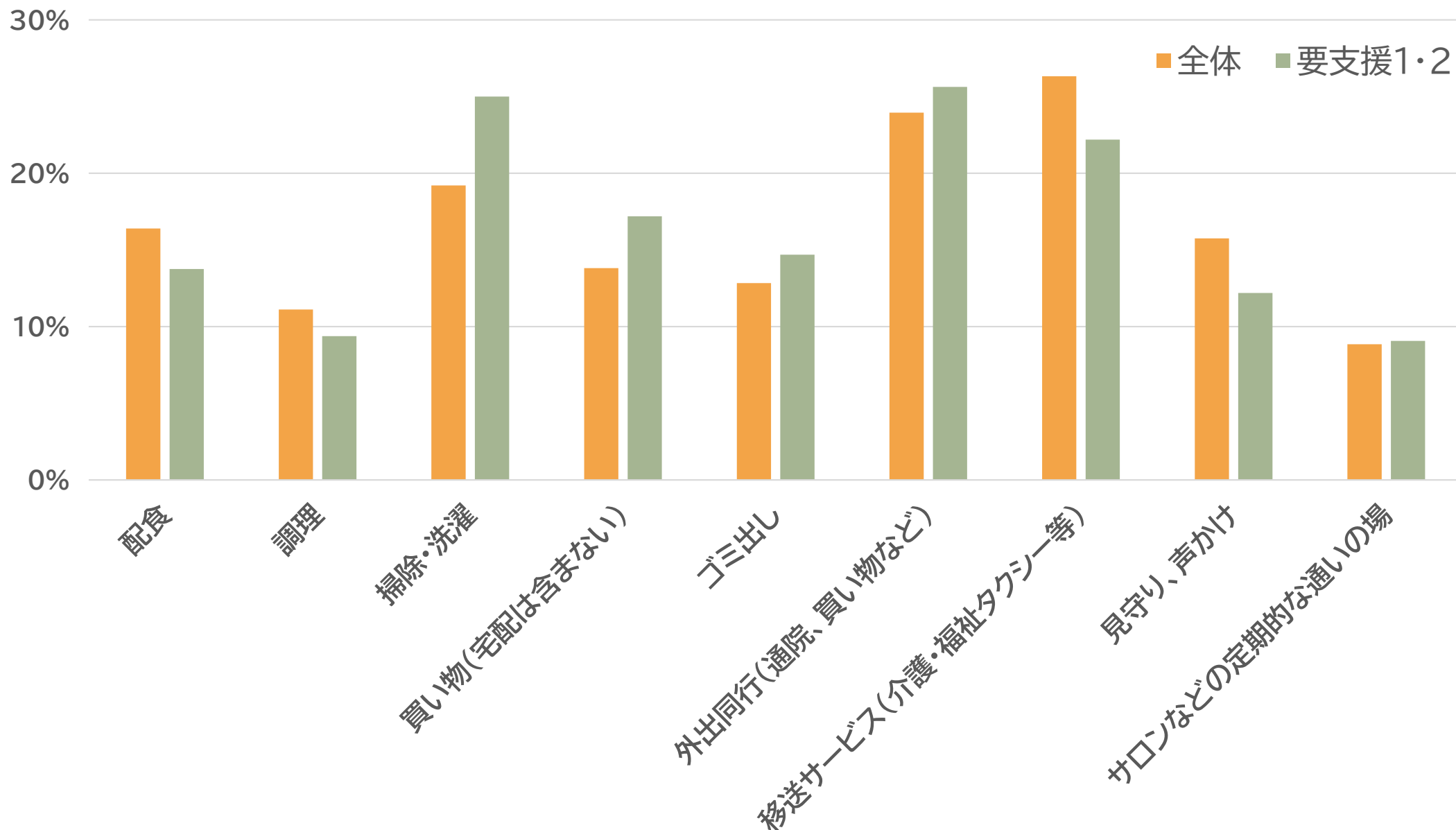
移送サービス(介護・福祉タクシー等)

見守り、声かけ

サロンなどの定期的な通いの場

要介護・要支援全体でみると配食や移送が多いが要支援1・2では移送は少なく掃除洗濯や買い物が多い

介護・支援 × 今後の在宅生活に必要と感じる支援(複数回答可)

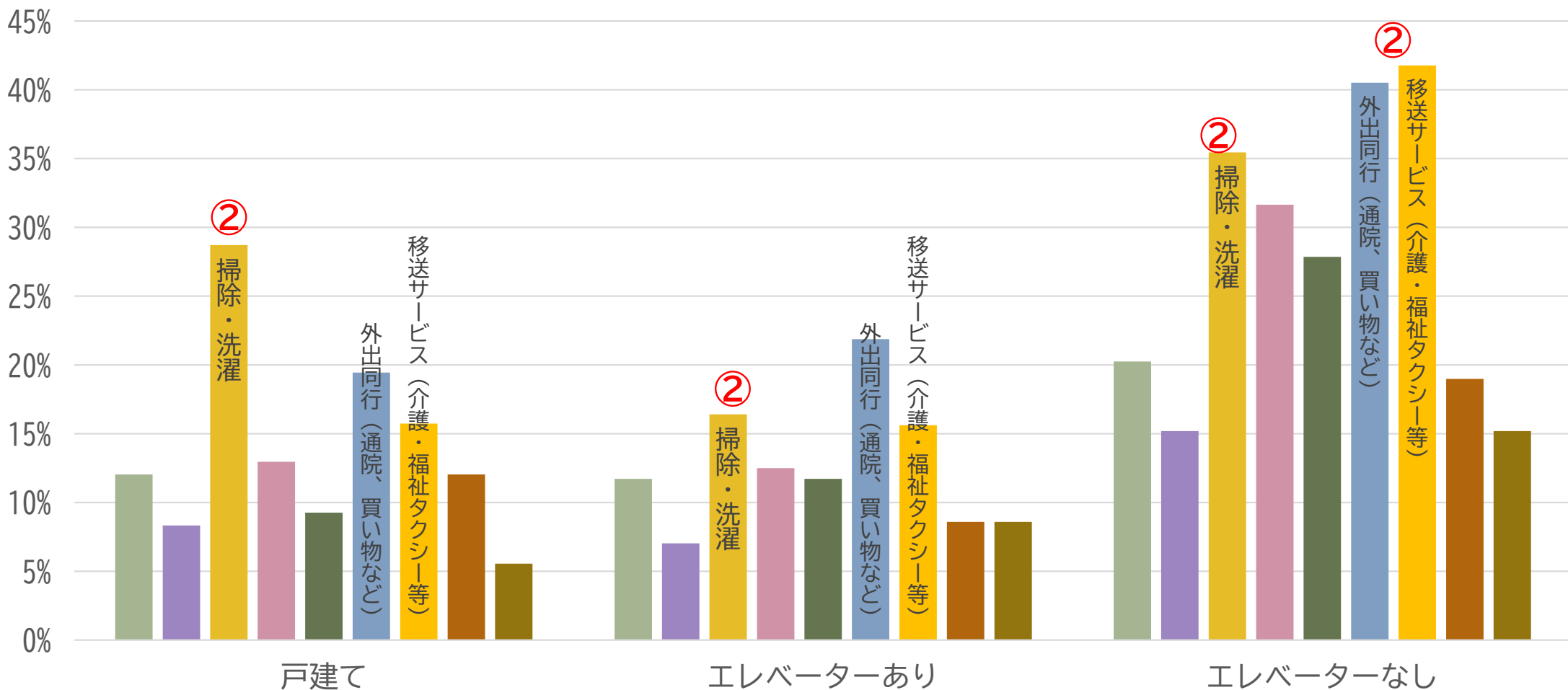


全体的に移送・外出同行が多い 要支援1.2は実際に使っている人は少ないが（前頁）必要と感じている

要支援 × 住まいの種類 × 今後の在宅生活に必要と感じる支援

- 配食
- 掃除・洗濯
- ゴミ出し
- 移送サービス（介護・福祉タクシー等）
- サロンなどの定期的な通いの場

- 調理
- 買い物（宅配は含まない）
- 外出同行（通院、買い物など）
- 見守り、声かけ

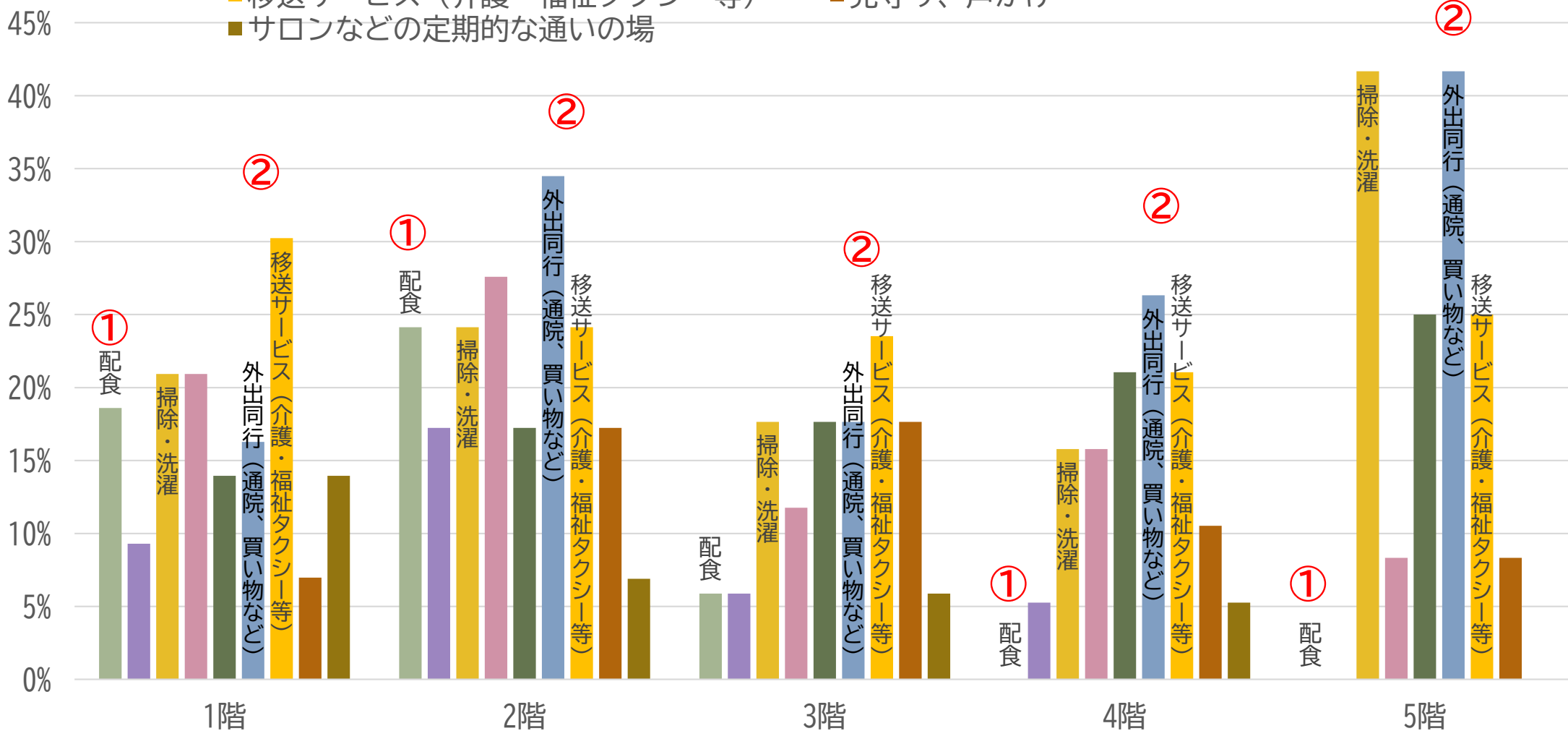


①エレベーターなしの集合住宅の回答割合が多い

②掃除洗濯・外出同行は上位に来るが、エレベーターなしの集合住宅では移送サービスが最も多い

要支援 × エレベーターなし団地の居住階
× 今後の在宅生活に必要と感じる支援

- 配食
- 掃除・洗濯
- ゴミ出し
- 移送サービス（介護・福祉タクシー等）
- サロンなどの定期的な通いの場
- 調理
- 買い物（宅配は含まない）
- 外出同行（通院、買い物など）
- 見守り、声かけ



①配食は1.2階居住者は多いが、3階以上は少ない

②外出同行や移送サービスはどのフロアにも多く、下層の方がより移送が多い

③ゴミ出しは上層の方が多い

データ共有後意見交換 現状を共有し、追加検証項目を検討



11月頃の第3回プロジェクトにて共有、課題やエリアなどを絞り込む作業へ

追加検証案)

- 独居 × 日常生活の中での困りごと
- 年齢 × 日常生活の中での困りごと
- ソーシャルネットワーク × 住まいの階数
- ソーシャルネットワーク × 日常生活の中での困りごと
- 外出頻度 × 住まいの階数 × 年齢
- 移動手段 × 年齢
- BMI × 一人で食べているか
- スマホの活用 × 年齢
- うつ傾向 × 外出頻度
- 包括の認知度 × フレイル
- よく合う友人・知人の関係 × 年齢
- 支援 × 独居 × 介護保険外で使用しているサービス
- 支援 × 独居 × 在宅生活の継続に必要なサービス
- 介護の不安 × 性別

2)移動プロジェクト

第1回（8/1）移動分科会の振り返りと今後についての検討

第2回（10/21）分析の途中報告と意見交換

【これまでの分科会について】

平成27-28年の地域ワークショップから 移動することが困難な高齢者が多くいる

孤立化・閉じこもりによるフレイル予防を目的とした、

高齢者の社会参加や集いの場への移動支援を検討するため移動分科会設置

平成
29
年度

移動困難地域の絞り込み

地理的特徴・自治会活動やサロン活動の状況について情報交換

将来的に住民が自立して地域の移動支援を運営できる住民性

モデル地域の選定

平成
30
年度

移動困難地域の一つである桜ヶ丘地区をモデル地域として選定

➡移動をテーマとした住民懇談会

➡自治会との意見交換

➡先行取り組み団体を講師に住民との勉強会開催

令和
元
年度

桜ヶ丘地区住民で発足した「移動を考える会」を通して支援し、実証実験2回実施

➡ニーズ調査のためのアンケート

➡運転者講習会や使用車両の手配

【これまでの分科会について】

令和
2年
3年度

コロナの中の移動の実証実験に向けて再準備
自主運営に向けてサポート体制の検討・支援

令和
4年度

実証実験支援(老人クラブ会へ参加困難になった方を優先した送迎実施)
移動を考える会を通してボランティアハンドブック作成を支援
自主運営に向けて支援

令和
5年度

他地域の移動にまつわる現状の再把握
➡地域包括支援センターおよび第2層生活支援Co(社会福祉協議会)への
アンケートまとめ(アンケートは令和4年度実施)

生活サポーター・元気塾の利用者に対してアンケートをする案も出たが…

➡目的外利用になる・あえてそこに対象を絞る理由は？

➡実施が見送られた

【令和4年度 移動に関する課題(主観的評価)】

～高齢者が虚弱になると移動が困難と思うエリアとその理由を聞いたアンケート～

聖ヶ丘地区(3丁目)

○急な勾配のエリアのための買い物・外出困難

愛宕・乞田・永山貝取豊ヶ丘の1丁目

- 駅まで距離があるがバスルートから外れている(愛宕以外)
- バス停に向かう道で、団地内で階段のみの箇所がある
- 歩行器等の置き場がない

落合・鶴牧地区

- 駅までの下り坂・帰りの上り坂のエリア
- レンガ道の凹凸による歩きづらさ
- エレベーターなし団地のゴミ出しなど縦移動

百草団地

- 車がない・虚弱になると買い物困難
- エレベーターなし5階建ての縦移動
- 団地内・周囲が坂道で外出困難

永山地区

- エレベーターなし5階建ての縦移動
- 歩行器等の置き場がない
- バス停まで遠いエリアがある
- 市役所へ行く交通手段がない



- ・客観的な数値でも確認したい
- ・社会参加だけではない移動の課題もある
- ・多くの地域に必要な課題もあるかもしれない
- ・ニーズ調査は公のもの 根拠として使いやすい
- ・(住民主体が主軸だと)担い手確保で地域を選定していた



ニーズ・実態調査を分析して
移動にまつわる課題の
ターゲットを絞っていくPJ

【移動にまつわる分析PJ スケジュール】

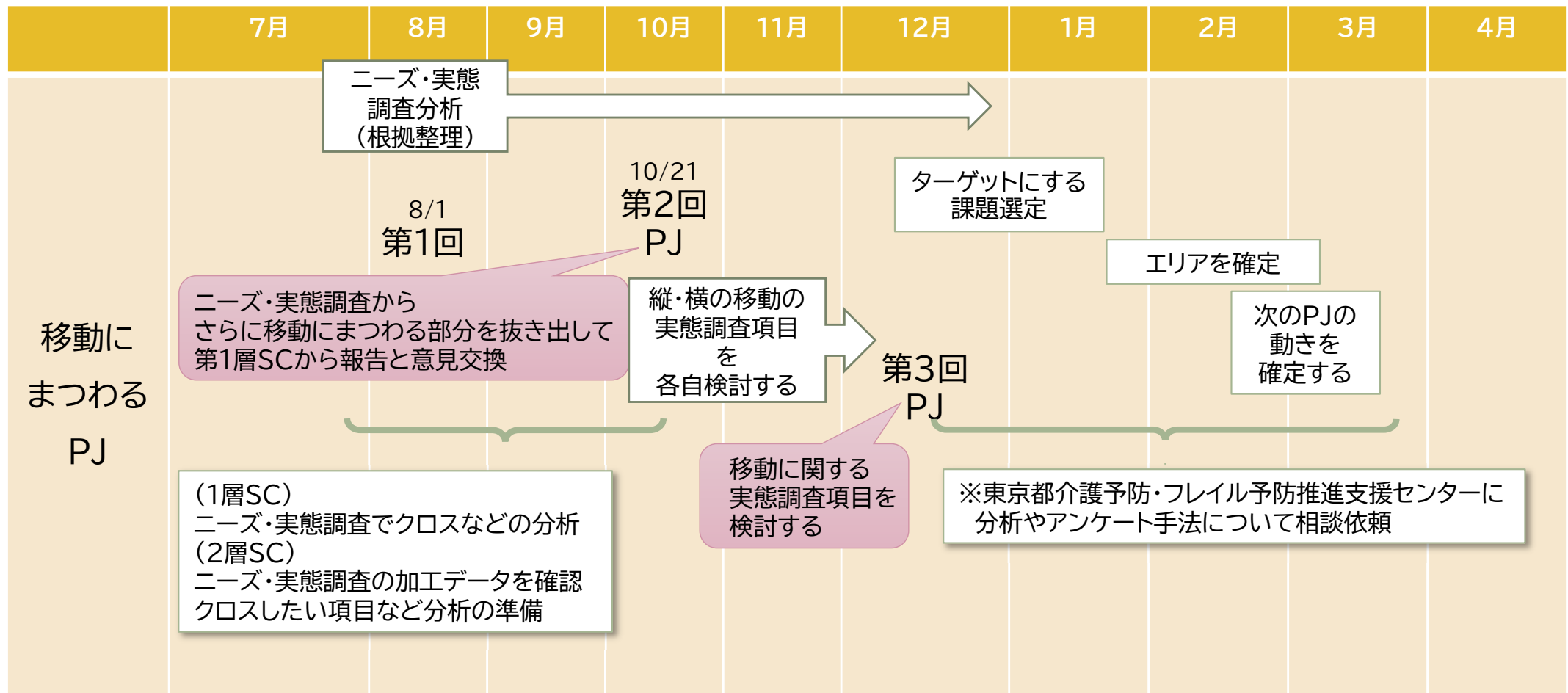
今年度の目標

移動にまつわる分析をして、次年度のアプローチ計画を立てる！



移動の中でもターゲットとする課題 エリアを確定させる

※移動の指す範囲について：今年度の分析においては、広義で「家を出て行う行動すべて」



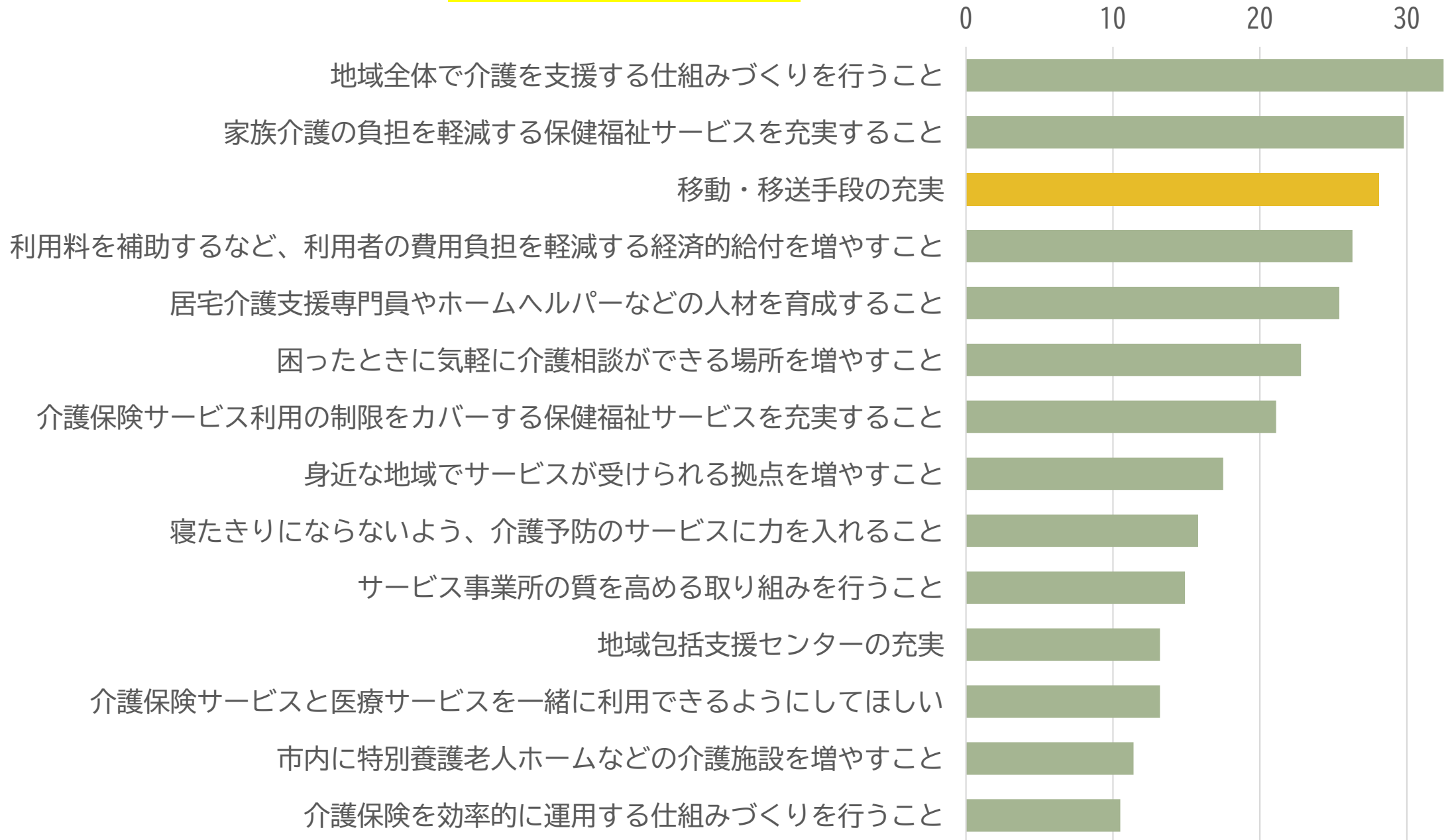
【第2回 共有内容】

介護保険事業所調査

『介護サービスをよくするため、市が特に力を入れるべきことは何ですか』（3つまで回答可）

介護保険事業所実態調査（R5）N=114

(%)



要介護・要支援者にかかわる専門職に聞くと、移動・移送手段の充実の希望が上位にくる

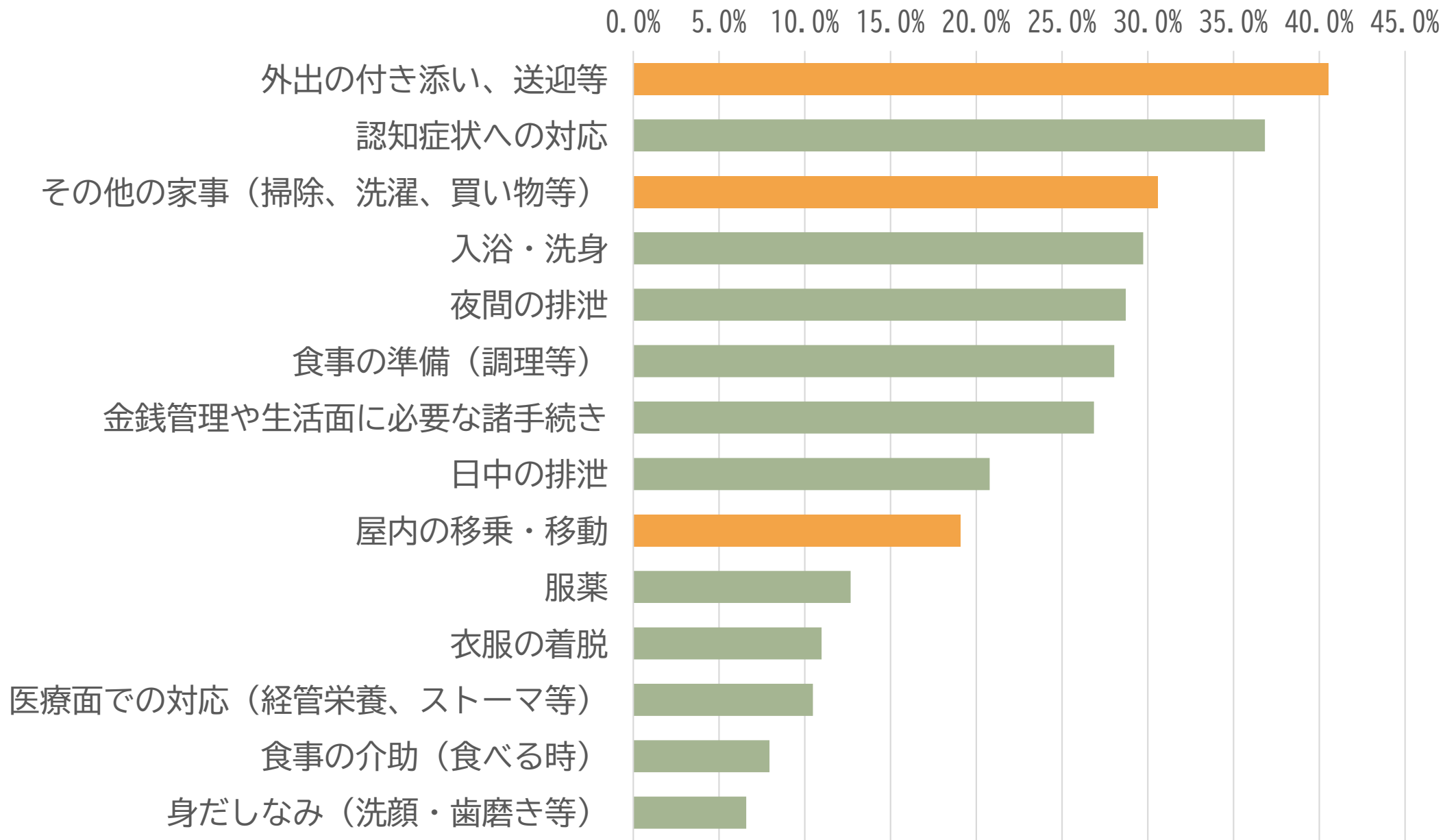
行政が介護保険事業計画の見直しなどに
活用するために3年に1度行う実態調査

在宅介護実態調査

調査時点で要支援・要介護認定をうけており
更新・区分変更による認定調査を受けた方

要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3-5
165人	155人	164人	183人	239人

主な介護者の方が不安に感じる介護等 在宅介護実態調査 (N=592)



要介護・要支援者の主たる介護者の約40%が外出・送迎に、30%が買い物を含めた家事に不安を感じている

主な介護者の方が不安に感じる介護等 在宅介護実態調査(R5)

要支援者のみ抽出(N=320)

0.0% 5.0% 10.0% 15.0% 20.0% 25.0%

外出の付き添い、送迎等



その他の家事(掃除、洗濯、買い物等)



入浴・洗身



食事の準備(調理等)



認知症状への対応



金銭管理や生活面に必要な諸手続き



夜間の排泄



屋内の移乗・移動



日中の排泄



服薬



食事の介助(食べる時)



衣服の着脱



医療面での対応(経管栄養、ストーマ等)

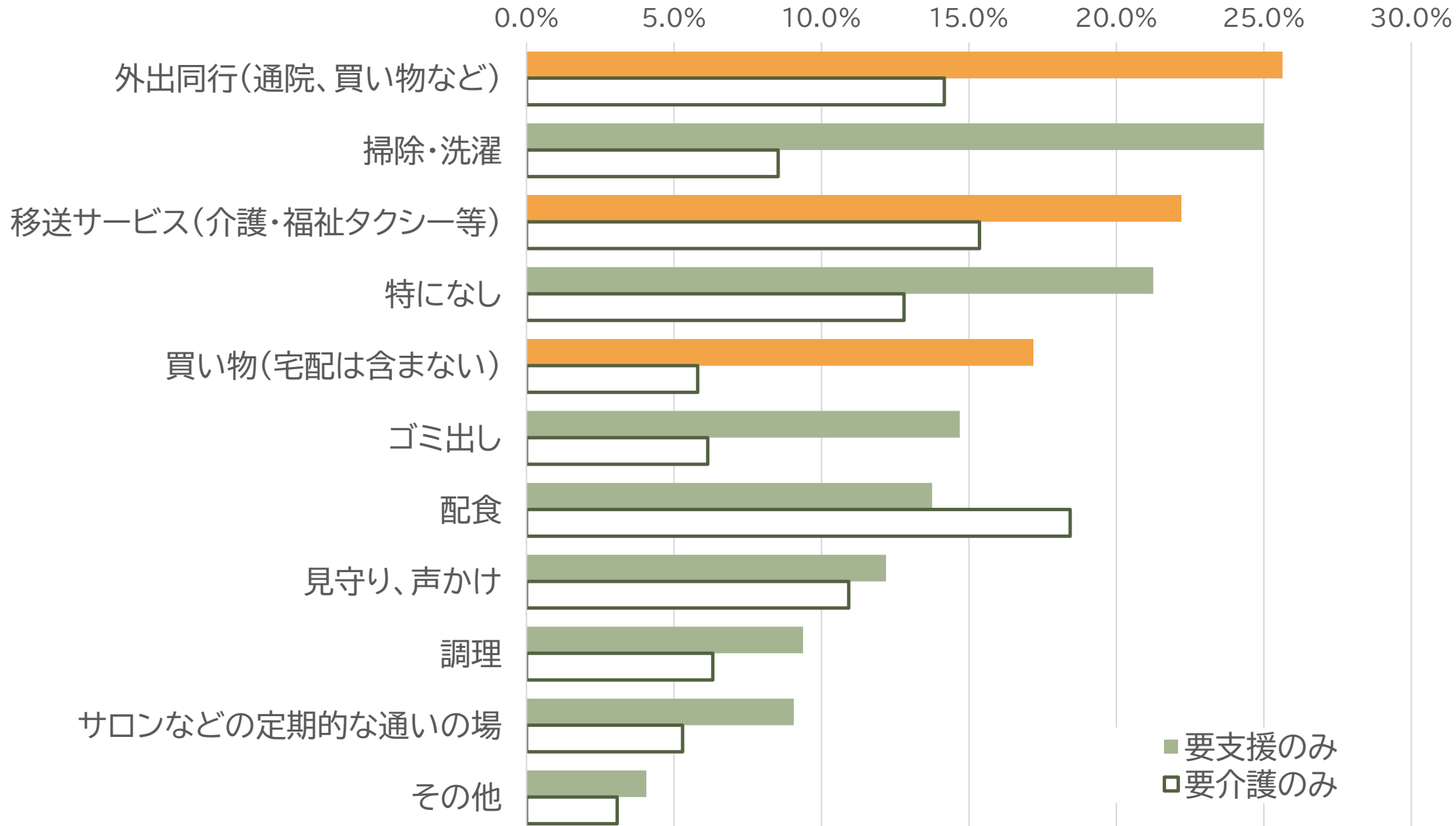


身だしなみ(洗顔・歯磨き等)



対象者を「要支援者の主たる介護者」とすると、外出の付き添いや送迎、買い物を含めた家事に不安を感じている

今後の在宅生活の継続に必要と感じる またはさらなる充実が必要な支援・サービス在宅介護実態調査(R5)



在宅生活の継続に必要または充実が必要な支援・サービスは、要支援者・要介護者で異なり、
要支援者（色付き）は、外出同行や移送サービス、買い物など移動に関するものが上位にきている

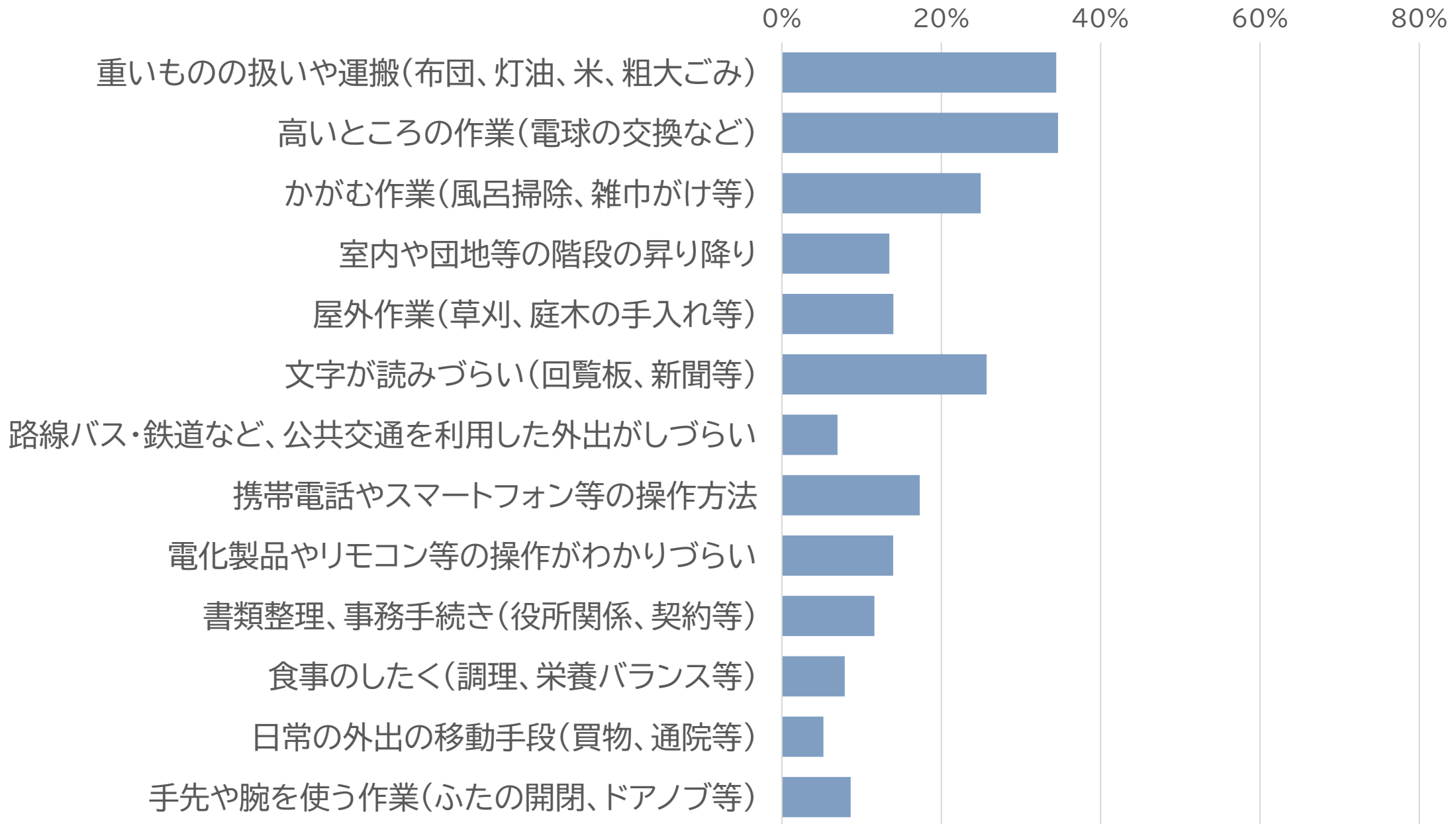
行政が高齢者保健福祉計画の見直しなどに
活用するために3年に1度行う実態調査

高齢者ニーズ調査

対象：調査時点で要介護等認定を受けていない65歳以上の市内在住者

日常生活の中で困っていること

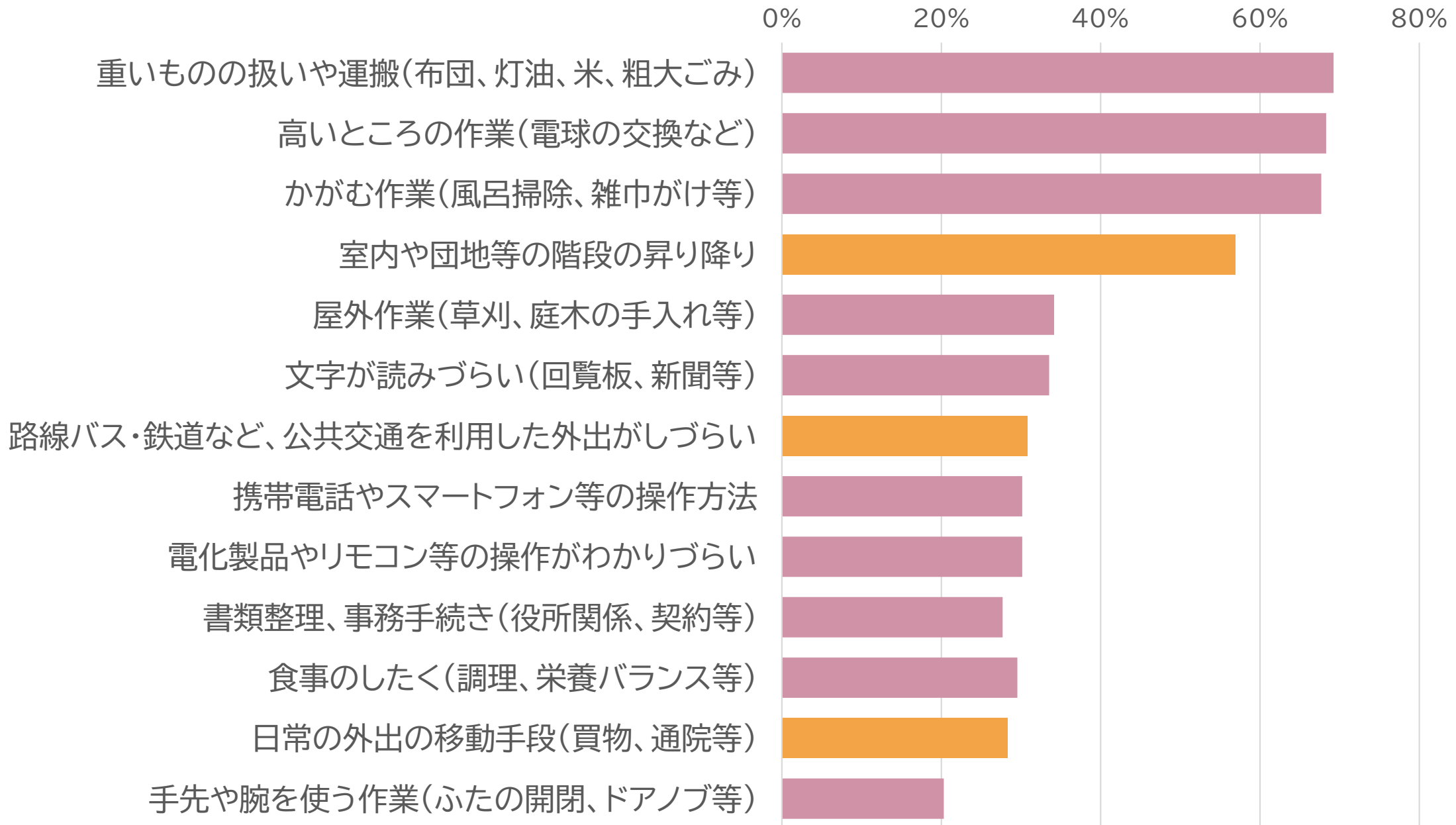
■全対象N=3111



全件対象で見ると、上記のような結果となり、室内や団地等の階段昇降、公共交通機関の外出は少ない

日常生活の中で困っていること

運動項目該当N=325



対象者を運動機能低下者のみとすると、上記のような結果となり、移動などの割合が増える

運動項目該当者

0.0% 2.0% 4.0% 6.0% 8.0% 10.0% 12.0% 14.0% 16.0%

全域N=3111

第1エリア(関戸・一ノ宮)

第2エリア(連光寺・聖ヶ丘)

第3エリア(桜ヶ丘)

第4エリア(和田・百草周囲)

第5エリア(愛宕・乞田・NT通り周囲)

第6エリア(諏訪・馬引沢)

第7エリア(永山)

第8エリア(貝取・豊ヶ丘)

第9エリア(鶴牧落合東側)

第10エリア(鶴牧と落合の西側・唐木田周囲)

運動機能低下者のエリア別分布をみると 大きな差はないが、第4エリアはやや多い

データ共有後意見交換 現状や地域特性を共有



12月の第3回プロジェクトにて追加分析を共有し、
縦移動(階段・坂)と横移動に関する実態把握に向けて、調査項目を検討

※アドバイザー:東京都介護予防フレイル予防推進支援センター
(東京都健康長寿医療センター研究所)

5, 協議

【互助を仕組み化しているもの】

例)総合事業「住民主体による訪問型サービス」

社会福祉協議会「たすけあい有償活動」

自治会や管理組合などの助け合い活動

民間企業による 生活支援活動 など

協議テーマ

『企業も含めた 住民主体の互助について』